

必要保安業務資格者数算定表

(事業所名) _____

| 保安業務区分 | 基本の算定式 | 条件により置き換える算定式 | 計 |
|---|--|---|--|
| 1 供給開始時 点検・調査 | 消費者戸数 $\square \times (1/20,000) = A \square$ | | A \square |
| 2 容器交換時等 供給設備点検 | 消費者戸数 年間実働日数 調査員数 充てん作業員数 $\square \times (1/(100 \times \square)) - \square - \square = B \square$ | | B \square |
| 3 定期 供給設備点検 | 消費者戸数 年間実働日数 充てん作業員数 $\square \times (1/(30 \times \square)) \times (1/4) - \square = C \square$ ただし、補助員を伴って行う場合は \downarrow $(30 \times (4/3) \times \square)$ | 3の業務のみの場合Cを、4の業務のみの場合Dを、3及び4の業務の両方を行い条件を満たした場合は、C：Dを算定すること。 消費者戸数 年間実働日数 $\square \times (1/(20 \times \square)) \times (1/4) = C \square$ \downarrow D | C \square D \square |
| 4 定期 消費設備調査 | 消費者戸数 年間実働日数 $\square \times (1/(25 \times \square)) \times (1/4) = D \square$ ただし、補助員を伴って行う場合は \downarrow $(25 \times (4/3) \times \square)$ | ただし、補助員を伴って行う場合は 消費者戸数 年間実働日数 $\square \times (1/(20 \times (4/3) \times \square)) \times (1/4) = C \square$ \downarrow D | D \square 又は C \square : \square D \square |
| 5 周知 | 消費者戸数 $\square \times (1/20,000) = E1 \square$ | 容器交換時等供給設備点検、定期供給設備点検、定期消費設備調査のうち1つ以上の保安業務と周知を合わせて選択する場合は下記の式を用いる。 消費者戸数 $\square \times (1/40,000) = E2 \square$ | E \square ※E1又はE2のいずれかを記入すること。 |
| 6 緊急時対応 | 消費者戸数 $\square \times (1/20,000) = F \square$ | | F \square |
| 7 緊急時連絡 | 消費者戸数 $\square \times (1/20,000) = G \square$ 事業所ごとの消費者戸数が2万戸を超える場合は下記の式を用いる。 $1 + (\square - 20,000) \times (1/80,000) = G \square$ | | G \square |
| ※ 3の業務のみ場合Cを、4の業務のみの場合Dをそれぞれ算定すること。3及び4の業務両方を行う場合は、C：Dを算定すること。 合計の欄には、A+B+C+D+E+F+G 若しくは A+B+C：D+E+F+Gどちらかを記載すること。(例外もあるので注意。) | | 必要資格者数 \square 人 (少数点以下切り上げ) | 合計 (A~G) \square |